

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの生活を大切に、安心してこれからも生活を送ることが出来ることをホームの理念に組み込んでいる。その他、地域密着型としての今年度のスローガンを掲げている。職員は、地域密着型サービスとしての役割を理解し、地域との関わりを重視したイベント等を計画している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや月1回のミーティングにて、理念に基づいた処遇検討を行っています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に掲示するとともに、パンフレットや重要事項説明書に明示している。見学や入居の際には、管理者から説明をし理念を理解して頂けるように努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の方々が気軽に立ち寄ることができるよう、イベントの開催を行っています。ボランティアの方々は、気軽に立ち寄りお花や山菜等の差し入れをしてくれる方もいます。地域の小学校にてホームの紹介や認知症高齢者についてお話しをしたり、ふれあう機会を設けています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ホームとしても介護者としても自らを見つめ直すきっかけとして利用している。外部評価は、私たちが普段気づかないことを客観的に見て頂きそれについて意見をいただけることが、私たちにとってよりよいサービスを目指すきっかけとなっている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現況報告、今後の取り組みについて、その他の話し合いの場として活用している。昨年は、自己評価と外部評価結果について説明し、意見を頂いている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターの方が参加されている。外部評価結果、自己評価は、評価後提出しています。今後も市との連絡を密にし、サービスについての相談等を気軽に出来る関係作りをしていきたい。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、外部研修へ参加し権利擁護・成年後見制度についての理解をしています。職員へは、外部研修へ参加できる機会を設けている。他に、管理者から簡単な仕組み等の説明を行っている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングにて勉強会を行い、虐待についての現状を学び虐待が起こる原因等を細かな視点から観察して虐待を防ぐ取り組みをしている。月1回のミーティングにおいても、気になる点を話し合い利用者同士の虐待についても未然に防ぐ取り組みをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの理念や取り組み、方針等を説明し、契約の際にはより細かくホームについて説明をしています。入居時の説明に退去についての説明を十分に行い、退去の際にも十分に説明をしている。退去時には、今後の対応についても説明を行い、医療機関との情報交換も行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人代表・管理者・職員は、細かな苦情が聞かれたときには、早急に内容を把握・検討し対応しています。同法人ではあるが、相談員も定期的に利用者から苦情や要望に耳を傾けています。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月次報告書をご家族に送付して報告しています。内容は、健康状態・往診結果・日常の様子・レクリエーションでの様子・その他・連絡事項となっています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は、重要事項説明書に記載し入居の際に説明しています。(ホーム相談窓口・国保連、市役所相談窓口) 相談は、管理者だけでなく担当職員、その他の職員も面会時等に積極的に聞くように心がけている。苦情等が聞かれた場合には、苦情処理委員によって話し合い、チームにて今後の対応を決めています。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しく利用の希望がある場合には、職員全体と話し合い、利用について決めています。その他、様々な要望や意見を聞き入れるよう個人面談等を行っています。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の急な要望や状態の変化に出来るだけ対応できるよう、日中フリーで動ける職員を配置しています。欠勤の際にも管理者が、シフトに入るなどの対処をしています。夜間は、1ユニット1名の夜勤者を配置して、変化があった場合には、夜勤者同士で協力し対応することが出来ます。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用の相談があった時には、ご本人・ご家族と面談し、心身の状況・ご本人を取り巻く環境を聴いています。本人の希望やご家族の希望を聴き、現在抱えている問題、不安な感情を出来るだけ緩和できるよう対応します。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた方から今一番困っていることを聞き、それに対して今できることについて説明しています。すぐに利用できない時には、ケアマネ等との連携にて現在の抱えている問題が緩和出来るように支援しています。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が楽しくホームにて生活を送ることが出来ることを、本人、ご家族とお話しし、利用前から支援しています。サービス利用の際には、早くホームでの生活に馴染むことが出来るよう職員は本人の状態を把握しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とのコミュニケーションの中で心情を理解している。その中で、好きなことや出来ることを職員が把握し、家事や趣味を職員と一緒に楽しんで行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、サービスを利用してからも、私たちと共に利用者本人を支えていくこと説明し、些細なことでもご家族へ報告しています。本人だけでなくご家族からの要望や以前の情報を聞き本人が快適に生活することが出来るよう努めています。		
26 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族の関係を大切にするため、サービス利用の際に詳しく説明している。入居後も本人の状態を電話や月次報告書にて報告したり、新聞にて様子をお知らせしています。疎遠になっていた利用者の場合には、連絡をより多く取り合い徐々に関係が修復していけるよう支援しています。		
27 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、ご家族から情報を得て、友人や行きつけの店等を職員は周知しています。時には、友人宅へ出かけたり、馴染みの店へ出かけるなど支援しています。本人、ご家族からの了承を得てから友人の方々にも新聞を送っています。		
28 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者同士の相性を把握し不快感を感じないように介入するなどし対応しています。利用者本人の意思表示も大切に押しつけるのではなくアピールできる場面作りを設けています。		
29 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後もご家族が遊びに来られたり、時には相談に訪れています。電話等にて相談をされたり、サービス終了後も深い関係作りを行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	チームにて利用者一人ひとりの希望、意向を把握するよう努め、それを周知できるようミーティング等を利用している。その際に意向に添った対応をチームにて検討しています。本人、ご家族や友人からの情報は、センター方式等にて記録しています。	○	センター方式の活用が上手く出来ていない利用者もいるため、これからも少しずつ活用できるよう努めていきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、本人の今までの思いや生活歴を聞き、安心した楽しい生活を送れるよう努めています。細かな情報なので、本人のプライバシーに配慮し対応しています。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用前の暮らし方や生活リズムを把握し、そのリズムを崩さないよう努めています。特に、日中の過ごし方は、本人が決めることが出来るよう様々な情報を元に支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ご家族・本人の意見を取り入れ、その意向をミーティングにて話し合い、その結果を計画作成担当者がプランとしてたてています。そして再度ご家族、本人と話し合い確認をしています。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は、3ヶ月ごとに見直しています。心身の状態に変化が見られた場合には、その都度、ご家族・本人と話し合いケアプランを見直しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、変化や対応方法について詳しく記載しています。 気づきは、記録・申し送りにてスタッフが周知できるようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況の変化に応じて、通院や買い物などへの外出に柔軟に対応しています。医療との関わりとして、月2回往診に来て頂いている病院と同病院内の訪問看護を利用し、利用者の変化や相談に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町会長、民生委員の方も運営推進会議のへ参加して頂きながら、利用者の方々とふれあってくれています。	○	これからも地域の方々とのふれあいを続けていけるよう努めていきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の必要に応じて、地域のケアマネジャー等と相談し、介護保険以外のサービス(マッサージ・リハビリ等)を受けることができるよう支援しています。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方々とは、運営推進会議等にて様々な相談にのって頂いています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>サービス利用の相談があったときに本人と面談し、本人の状態を見て、環境の変化によるストレス等の緩和を図るため、ご家族や医師、その他周囲の方々に認知症の症状について説明し、協力を得られるよう努めています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の方々と接するときには、本人の感情に配慮した声がけを行っています。職員は、細かな情報であっても個人情報として考え、職員間の情報交換であっても声の大きさ等に気を付けています。</p>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の過去の情報をご家族・友人などから聞き、本人が好むこと・したいことを把握し、本人が決めやすいような促し方をしています。利用者自ら表現することが困難な場合においても、ご家族等の情報から嗜好を知り、本人が楽しめるよう支援しています。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームでの過ごし方は、利用者本人が決めることと考え、私たち職員は利用者の方々が苦痛無く生活を送ることができるよう支援しています。利用者の方々はその日、その時間、瞬間を大切にしています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の慣れ親しんだ美容院等の店に通うことができるよう支援しています。服装もご家族や友人からの情報から以前と替わらない服装で生活できるよう努めています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々の嗜好を職員は周知し、食事提供の際に注意して提供しています。楽しく食事を摂ることができるよう、ホーム畑から利用者が収穫した物を一緒に調理しています。後かたづけは、利用者と職員が分担して行っています。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好は、利用前の情報や現在の状態を踏まえた上で楽しく生活を送ることができるよう支援しています。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを観察し、気持ちよく排泄を行うことができるようオムツでは無くトイレでの排泄ができるよう支援しています。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や状態に応じていつでも入浴できるよう入浴日は決めず、毎日お風呂に入ることが出来ます。利用者の希望やプライバシーに配慮した入浴が出来ます。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方や、夕方の過ごし方を観察して、夜間安心して過ごせるよう支援しています。ただ眠剤を使用するのではなく、医師と相談し現在の過ごし方にあった薬の調整を行っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活の中で楽しんできたこと、趣味としてきたことを大切に、毎日の過ごし方に取り入れています。困難になってきた場合であっても、少しでも楽しめるよう職員が共に行い楽しむ事が出来るよう支援しています。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態とご家族と相談の上で、利用者自身でお金を管理しています。そして、買い物にて支払いをする機会を設けています。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中で生活をするだけでなく、外出し社会とふれあう機会を常に設けています。心身の状態を見て、散歩やドライブにて出かけています。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者本人の意向によっては、生まれ育った故郷に行ってみたり、何年も訪れていないお墓に行ってみるなどその人にあわせた外出が出来るよう心がけています。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に設置した公衆電話は自由に利用でき、その他、居室内に電話を設置することも出来ます。利用者の方々の意向によってご家族や遠方の親戚に手紙を書く機会をもうけています。(暑中見舞い、年賀状等)		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっていないのでいつでも面会が出来ます。遠方からご家族がいらっしゃった場合には、利用者本人と同じお部屋で泊まることが出来ます。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	私たちは、身体拘束における弊害を理解し、身体拘束を行わないケアを心がけています。やむを得ず身体拘束をする場合には、ご家族へ拘束方法・時間を説明し同意を得た上で記録を残しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠を外し戸を開けるとメロディーが鳴るようにしています。ユニットごとの扉は、夜間は施錠をしています。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、昼夜共に利用者の方々が安心して生活を送ることが出来るよう監視するのではなく、見守る視点で利用者の方々の様子を把握しています。居室内の様子もさりげなく小窓から伺ったり訪れたりしています。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な洗剤等は、目の届かない場所に保管している。包丁等の保管は、施錠して保管しています。はさみや裁縫セットは、職員が目届く場所に保管し、利用者の方々もいつでも使用できます。使用時には、職員が注意して観察しています。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態に応じてヒヤリ・ハットを活用して介護方法を見直し事故防止に努めています。そして事故が起きてしまった場合には、職員一同で話し合い再発防止に努めています。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時における対応マニュアルを用意し、それに基づき勉強会を開くなどして対応をしています。初級救命救急を職員は受講しています。	○	定期的に救命講習を受講していけるように努めていきたい。
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年4回行っています。夜間を想定した避難訓練も行っています。運営推進会議でも災害時の対応について話し合いを行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	ご家族とのカンファレンスの際に、現在の状態か ら見てのリスクについて説明し、対応を決めてい ます。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	入居時にアレルギーや既往歴の情報を聞き、職員 一同周知しています。職員は顔色や歩行の状態等 から、自ら訴えることが困難な方の変化に気づく ことが出来るよう勉強会等にて学んでいます。変 化や異常が見られた場合には、日誌等に記録し職 員が周知しています。		
71 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている	薬の説明書を職員がいつでも閲覧でき、職員は利 用者の服用している薬の内容を把握している。ま た、利用者の状態に応じて薬の変更等があった場 合には、申し送り等を利用して周知しています。		
72 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘の予防として食事・水分・運動に注 意して利用者の状態を観察しています。本人から の訴えがあった場合には、現在の状態から苦痛の ない対応方法を考え、食事の見直しや水分摂取の 促し等にて対応しています。		
73 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている	全入居者の食事が終わった後に、うがいや歯磨き 等の口腔ケアを促しや介助にて一人ひとりの状態 にあわせた支援を行っています。		
74 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、摂取量を記録し職員が状態を把握してい ます。利用者の状態によっては、水分摂取量の観 察やチェック表を使用している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成し、それをもとに対応しています。マニュアルはその都度見直して、勉強会等にて職員は周知しています。	○	感染症の早期発見や起こってからのマニュアルの整備をしていきたい。
76 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材・調理器具の衛生管理はマニュアルに基づき対応しています。マニュアルの内容は、勉強会等にて職員全員が周知しています。冷蔵庫の中身の管理は、毎日担当職員が行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路からホーム入り口まで季節の草花で飾っており、訪れやすい雰囲気を心がけています。		
78 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、職員手作りの装飾品や季節感を感じられる掲示物にて家庭的な雰囲気を心がけています。共有のスペースでは、トイレやお風呂が近いため、利用者の方々が不快感を抱かないよう臭いや室温等に気をつけています。		
79 ○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファーや椅子にて気のあった仲間同士話をしたり、趣味を楽しめるように配慮しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>○建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

-		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちのホームでは、長く利用されている方々には、大きな変化がないよう安心して安定した生活を提供することを心がけ、新しく利用された方々には環境の変化からのストレスが、少なくなるようご家族や地域との関わり合いのもと努力しています。
介護スタッフは、認知症介護のプロとしての意識を高め、利用者の日々の変化を見逃さず、安心して生活を送ることが出来るよう努めています。